香川県農業試験場研究報告　第 34 号(1982 年 10 月)　 23-28

除草剤利用による温州ミカン園の春草管理の効果

高橋健二※

温州ミカン園の春草に対して,除草剤を早期に処理した場合の殺草効果,樹体の生育,果実の品質等に及ぼす影響について検討した。

１．除草剤はターバシル・DCMU(ゾーバー水和剤)を用い,製品量で 10a 当たり 300g を 300 ℓの散布量で 2 月下旬から 3 月上旬にかけて処理した。

２．ミカン園を除草剤処理により早期に裸地化した場合,4 月から 5 月にかけて地温の上昇がみられ,無処理区に比べ日最高地温で約 5℃の差が認められた。

３．ミカンの樹体に及ぼす影響をみた結果,除草剤処理によって発芽,開花期が 2～3 日早くなり,果実の品質では着色が良好で糖度が約 0.5%高くなる傾向が認められた。

４．早期から草管理を行う場合,人力による場合は再生が早く,労力を多く要するし,また接触型除草剤では残効期間が短く,再散布する必要があり,いずれも裸地状態の維持が困難であるので,土壌処理型除草剤が最も適すると考えられる。